

第 37 回平和祈念展示資料館の運営に関するアドバイザリーボード 議事要旨

1 日 時 : 令和 5 年 2 月 28 日 (火) 10:15~11:55

2 開催方法 : WEB 会議

3 出席者 : (委員)

- ◎黒沢 文貴 (東京女子大学名誉教授)
- 戸谷 好秀 (一般財団法人日本統計協会理事長)
- 兼川 真紀 (弁護士)
- 亀井 昭宏 (早稲田大学名誉教授)
- 斎藤 靖二 (神奈川県立生命の星・地球博物館名誉館長)
- 名越 健郎 (拓殖大学特任教授)

[敬称略、◎は座長、○は座長代理]

(総務省)

- 河合 暁 官房審議官
- 加藤 剛 大臣官房総務課管理室長
- 米澤 俊介 次世代継承研究官

4 議事次第

- ・ 令和 4 年度平和祈念展示資料館運営業務実施 (見込み) 報告について
- ・ 令和 5 年度平和祈念展示資料館運営業務計画 (案) について

5 議事要旨

令和 4 年度平和祈念展示資料館運営業務実施報告書 (見込み) を委託業者から報告。続いて、令和 5 年度平和祈念展示資料館の運営管理業務委託の概要について事務局から説明。その後、委託業者から令和 5 年度平和祈念展示資料館運営業務計画について説明があり、質疑応答が行われ、最後に意見交換が行われた。

委員の主な発言等は以下のとおり。

- 令和 4 年度に平和祈念展示資料館が進めた 10 のプロジェクトの進捗ぶりに感銘を受けた。
- 米国立公文書館の資料調査を行い、日本人の引揚げ時の画像データなどを入手されたとのことだが、引揚げ時の資料を持っている方に、新聞広告で呼びかけをするなどしてもいいのではないか。

- 「HKTタイムズ」という館内配付物により、来館者への情報提供を行ったことは評価するが、プレスリリース的な作りなので、もっと外部の方が読みやすくなる編集をするなどの工夫が必要だろう。
- 平和祈念展示資料館の情報の出し方をバージョンアップして、きちんと後世に残して行っていただきたい。
- 全体としてかなり努力されている。コロナ禍で多方面に事業を展開されているのは評価できる。
- 平和学習支援プログラムは大変良い。これは今後発展しそうであるし、学校側も期待を持てるプログラムではないだろうか。今後は、障がい者に対する視点を念頭においた、インクルーシブな取組にも期待したい。
- 令和5年度に計画されているピースツーリズムは面白い企画。ただ、ネーミングは再考してはどうか。
- 来館促進のために、いろんなターゲット層に様々なアクセスをしているが、それらをマクロな視点で検証し、データを累積していくとよいのではないだろうか。
- 他の博物館が行っていないようなユニークな試みをされている。以前、平和学習支援プログラムについて「博物館研究」誌で論文を発表されたが、そういった形で平和祈念展示資料館の試みを他の博物館関係者に紹介してはどうか。
- 今年度、これだけ来場者を集めたことについては感心している。また、令和5年度の運営業務計画は精力的で良い。
- 令和5年度の運営業務計画では、「感じる」展示施設というのを打ち出しているが、「感じる」という点において、音、音楽などを活用して、何かできないか、検討していただきたい。

（ 本議事要旨は、総務省大臣官房総務課管理室において作成した。
速報版であり、今後、修正する場合がある。 ）